

## 2015年度の事業報告の概要

### 1) 今期の事業活動に影響をあたえる医療情勢と組織内課題について

事業開始時点での課題は以下のようなものがありました。

- ①医療・介護への総改悪がすすめられており、全役職員が事態を正確に掌握し、社会保障運動をすすめるとともに、患者さんに寄り添い、いのちと健康をまもる視点をしっかり持って事業活動をすすめること。
- ②「人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策」となる、戦争法案が国会で強行採決されようとしているなか、全国民的課題であるこの憲法違反の法案を廃止する運動に参加していくこと。
- ③健診事業に大きな影響をあたえる「ストレスチェック制度」が12月に開始されるため、情報をしっかり掌握してどう対応するか確定が必要であること。
- ④健診事業を主たる事業としている事業所として、HPH活動への対応は必要である。その具体化をどうすすめるかが求められていること。

### 2) 今期の公益事業活動について

今期も定款に定めた地域・職域へむけた公益事業活動を積極的にすすめました。

#### ①「健康の維持増進の相談・助言及びその啓発・知識の普及」について

健康診断の結果に基づき要検査・要治療の該当受診者に対しておこなっている受診勧奨の文書は、一般健診受診者の16%にあたる9,620名に送付しました。至急に受診が必要な方には、別途、電話等での連絡や呼び出し、専門医療機関への診療情報提供書の発行を373名の方におこないました。

労働安全衛生管理講習会については、今期はストレスチェック制度の目的と意義・職場におけるメンタルヘルス対策について、京都産保センターの労働衛生コンサルタントとメンタルサポート京都の産業カウンセラーを講師に25団体33名の方に参加いただきました。

また友の会と協力し、まちかど健康相談会を伏見イズミヤ店、コープ桃山店、コープ石田醍醐店の3箇所で開催し、合計約160名の方に、血圧と骨密度測定、健康相談をおこないました。

タクシー業界の情報誌「週刊交通21」という雑誌に、松田保健師によるタクシードライバー向けの「加齢による健康問題について」の講演会の様子が紹介されました。また、障害者福祉施設から「職場における感染症予防対策について」などの講師依頼があり、対応も進めました。

なお、今期は公益財団法人JKKAの補助金による胃胸部併用X線検診車の整備をおこなった条件を活かし胃透視検査の実施件数を増加させ健康管理を充実させることを重視し、協会けんぽ健診で311名増やして、実施率30.8%から34.1%と引き上げることが出来ました。出張健診では、胃透視検査の実施率20.7%とまだまだ対応が必要となっています。

#### ②「調査・研究・広報等に関する事業」について

他の関連医療機関との地域看護研究会に、京都市城南診療所からも発表をおこない、川野看護師は「複数の病院受診を繰り返す患者さんとの関わりで学んだこと」、松本看護師は「高齢者の予期しない出来事が発生した場合の心の変化について学んだこと」を発表しています。今期は、医師・産業医による研究発表は残念ながらありませんでした。

#### ③「生活困窮者に対する無料・低額診療制度に関する事業」について

無低診事業は、今期54名（前年比18名増）、延べ462回（前年比179回増）活用され、健診後の増進部からの声かけでの利用の開始、他の民主団体や市議員からの紹介、福島からの原発事故避難者の利用などもありました。新たな利用者は14名でした。また、今期も事業所目標に「生活困窮者に対する無料健診の実施」を掲げ、2月13日、生活困窮者への無料健康診断を南区にあるホームレス支援団体とともに実施し、路上生活者3名を含む17名の方へ健康診断をおこないました。その健診結果の説明会については、2016年4月でおこないました。